



言葉遣いは心遣い

2学期が始まって2週間が経ちます。子どもたちも来週13日から本格的に運動会の練習が始まります（運動会特別日課）。まだまだ

残暑厳しい日が続くことが予想されます。子どもたちには水分補給用の水筒を毎日忘れずに持たせていただくよう、ご協力よろしくお願いいたします。

さて、運動会の練習に追われるようになってきますと、気持ちの焦りや苛立ちそれに加え暑さもあって、となく言葉も乱暴になりがちになります。そのような状態を喜んだり望んだりしている人は誰もいません。運動会の練習にしても教室での学習にしても、誰もが居心地が良い空間で安心して過ごし、仲間との楽しい時間であることを望んでいることでしょう。そうした環境をつくるために大切にしてほしいものがあります。それは「言葉」です。

人と人との関係をつくるコミュニケーションをとるために「言葉」は必ず必要になります。地球上の数多い生き物の中でも「言葉」を使って他と複雑なコミュニケーションをとることができるのは人間だけです。人がお互いを理解するために「言葉」は重要な役割を果たします。これは年齢を問わず、老若男女全てに言えることだと思います。そして「言葉」には、人と人をつなげる力があります。「おはよう」「ありがとう」「さようなら」などのあいさつの言葉ひとつをとっても、そのことがわかるでしょう。逆に人と人を遠ざけてしまう力も「言葉」にはあります。数年前から聞くようになった「うざい」「きもい」「むかつく」などの言葉がそれにあたります。

「言葉遣いは心遣い」といい、その言葉を発する人柄を表します。「心遣い」とは、あれこれと気を配ることであり、つまり相手のことを思いやり、相手の立場に立って考えた後の行為や言葉のことを言います。その人が何を話し、どのような言葉遣いをするかによって、私たちはその人の性格や考え方など、その人がどんな人か今どう思っているのかを言葉遣いから読み取るのです。

多くの人が、ある言葉によって慰められたことや元気づけられたこともあれば、傷つけられたことやつらい思いをしたことがあると思います。となく私たちは、自分の思い通りにならないと腹を立てたり、自分の非を認めず、いつも人のせいにしたりするなど自己中心的になりがちです。そんな時に、乱暴で人を傷つける言葉を発してしまいます。しかし相手の気持ちを考え、少しでも心遣いをするすることで、自然と言葉遣いは丁寧になり、相手を心地よくさせることができます。

2色対抗の運動会に向けての取り組みになりますが、ちょっとした言葉遣いで多くの笑顔が見られ、切磋琢磨する中でもお互いを励まし合い、温かみのある運動会特別日課、ひいては学級、学校を目指していきたいと思えます。

健やかサポート訪問

市では、発達の気になる児童や特別な支援を要する児童に対し、適切な療育の支援を行うため、発達障がい等の知識を有する専門員、保健師、福祉の相談員等による巡回訪問を実施しています。本校では、10月8日（火）に実施されます。

3年生校外学習

5日（木）に社会科の学習で、光・彩とシャトレゼ・ベルフォーレワイナリーに行ってきました。



4年生校外学習

3日（火）に社会科の水の学習で、平瀬浄水場と荒川ダムに行ってきました。



平成31年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・(数学)／(英語)に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。(英語・理科は、3年に1度の調査となります。)

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国より低くなっています。特に、読むこと、話すことは、全国の平均正答率に近づいてきていますが、漢字の読み書きや「ことわざ」などの伝統的な言語文化の領域に大きな課題がみられます。日常的に文章を読み込むことに慣れ親しませ漢字の活用を行うことを念頭に今後も指導を強化していきます。
- ・算数の平均正答率は全国よりやや低くなっています。特に、「数と計算」「図形」「数量関係」では全国の平均正答率に近くなりました。特に、昨年度の学力把握調査の「図形」の結果から比べると、飛躍的に伸びている傾向がみられます。量と測定に課題がみられるので、グラフの活用や式や言葉を使って説明する力を育成できるよう、今後も継続して指導していきます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「家の人と学校での出来事について話をしますか」「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使用しましたか」については高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「自分には、よいところがあると思いますか」「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」「新聞を読んでいますか」「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか」の項目で肯定的に回答した児童の割合が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対する数値の低さから、自己肯定感が低い児童に対し、人から認められているという自己有用感を育むために、互いに認め合えるような全校的な取り組みや授業を行います。
- ・全校で朝の活動や朝の会などで日常的に活用できる漢字やことわざ・慣用句などを工夫して取り入れ、生きた語彙の習得ができるような活動を継続して取り入れていきます。朝の活動などの読書タイムの充実と、家庭学習などの読書の奨励を行います。
- ・算数の授業において、絵・図・式を活用して表現していくことを土台とし、絵や図形が式と関連していく過程を考えさせる授業作りを行います。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・昨年同様各学年の「家庭学習の手引き」や山梨県の学びの改善八か条を活用し、励ましの言葉をかけていただくとともに、一緒に考えたり学び姿をみせたりするなど大人が関わってあげてください。
- ・TVやゲーム・スマートフォン等の使用時間を制限し、家族で読書をする日・時間を設定し、本の内容について話し合う機会をもってあげてください。
- ・人のために役立つことの大切さや家族としての役割をもたせ、人から認められる場面をつくってください。